

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果（傾向と対策）

加古川市立東神吉南小学校

Ⅰ. 各調査の結果と分析（本校の課題）

○国語

- ・全体的な正答率は全国平均と比べてやや低い。
- ・「相手にしっかり伝わるように、理由や事例を用いて、分かりやすく話を構成する」問題は全国平均と比べて高い。
- ・「目的に応じて、必要な条件を見付けることができるかどうかをみる」問題について、課題が見られた。
⇒このように、分かりやすく話を構成する力に強みがある一方で、必要な条件を見つける読み取り力に課題が見られ、全体の正答率を押し下げる要因となっている。

【国語の課題解決のために】

- ・教材文から、条件（キーワード・設定）」を抽出し、箇条書きなど、構造化する活動を日常的に行う。
- ・文章中の登場人物の行動や主張について、「どんな条件・理由に基づいているか」を教科書の本文から探して線引きさせる指導を継続する。
- ・「○文字以内」「指定された言葉を必ず使う」「～の場合」など条件）を設けて、短文を書いたり要約したりする活動を定期的実施する。

○算数

- ・全体的な正答率は全国平均と比べてやや低いが、概念や意味を正しく理解できている部分については、高いパフォーマンスを発揮している傾向が見られる。
- ・「単位量あたりのわり算（1 あたり）の意味を理解し、計算結果から混み具合を正しく比べられるかを見る」問題は、全国平均と比べ高い。
- ・同じ「意味の理解」であっても、「体積の意味について理解しているかどうかをみる」問題には課題が見られる。
⇒「概念や意味を正しく捉えられているか」が正答率を左右していると言える。

【算数の課題解決のために】

- ・具体物や視覚モデル（単位立方体など）と公式を結びつける操作活動を行う。
- ・「言葉・図・式」を相互に変換して説明させる場面を設定する。
- ・「体積＝ 1cm^3 が何個分か」など、根本の定義に立ち返る発問を繰り返す。
- ・「見た目」と「実際の量」など、ズレを扱う課題で、概念の誤解を揺さぶる。
- ・既習概念と関連付け、「1 単位がいくつ分か」など、根本・基礎的な捉え方を意識させる。

2 児童質問紙に見られる本校6年生の特徴

※全児童の特徴でなく、そのような特徴を持つ児童が比較的多いということです

- 親や家族と学校の勉強や悩みについて「よく話す」と答えた児童の割合が、全国平均を大きく上回っている。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと答えた児童の割合が、全国平均を大きく上回っている。
- ▲道徳の授業で話し合いや考えを深める活動に取り組んでいると答えた児童の割合が、全国平均を下回っている。
- ▲学級で違う意見を言っても否定されないと感じている児童が全国平均を下回っている。
- ▲自分によいところがあると感じている児童や、普段の生活で幸せな気持ちになると答えた児童の割合が全国平均を下回っている。
- ▲平日に SNS や動画視聴などを4時間以上していると答えた児童の割合が半数近くに達しており、全国平均を上回っている。
- ▲ICT 機器を使って情報の整理やプレゼンテーション作成ができると答えた児童の割合が全国平均を下回っている。

3 改善への取組

- 「違う意見を言っても否定されない」という心理的安全性を高めるため、道徳をはじめ全教科で相手の意見を受け止めるルールを徹底し、グループ学習では「人」ではなく「条件を満たしているか」という視点でお互いの文章や考えを客観的に確かめ合う習慣を育む。
- 強みである構成力を生かしつつ読み取りの課題を克服するため、毎日の授業で問題文からキーワードや設定などの「条件」を箇条書きで抽出させたり、「指定された言葉を使う」「○文字以内」といった条件付きの短文作成や要約活動をしったりする学習を継続的に行う。
- 体積などの学習において公式の暗記に頼るのではなく、実際にブロックなどの具体物を操作する体験や、「見た目と実際の量のズレ」を扱う課題を取り入れ、「 1cm^3 が何個分か」といった根本の定義に立ち返りながら「言葉・図・式」を結びつけて説明する力を育む。
- 日常の宿題や朝学習の中で、感想やふりかえりなどをタブレットへ短文で入力・共有する機会を積み重ねる。これにより、日頃から自然に ICT 操作へ親しませるとともに、自分の意見がクラスに共有される体験を通して「自分も役に立っている」という自己有用感を高める。

4 家庭へのお願い

- 一律のメディア禁止ではなく、「就寝 1 時間前は使わない」「食事や学習中は使用を控える」といった生活リズムを守る『マイルール』を親子で話し合って決めていただくようご家庭へお願いします。あわせて、単に利用を抑えるだけでなく「調べ学習や学習アプリに使う」など、メディアを自分の学びのため、効果的に活用を促す関わりを保護者をお願いしていきます。